

週 報

1994年8月7日 聖霊降臨節第12主日

平和聖日

巻15 19号

1994年度教会主題

「十字架のキリストを証する」

聖句 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。
だから、自分の体で神の栄光を現しなさい。

コリントの信徒への手紙一 6章20節

目標 1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
2. 一人一人が伝道と奉仕を。

日本キリスト教団 横浜港南台教会

〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電 話 045-833-5323

ファックス 045-833-6616

振 替 00290-4-13994

牧 師 秋 吉 隆 雄

吸収・合併させられたのではないか。確かに本土の教団は何の変更もせず、沖縄の教会に名称の変更を強いる結果となり、大が小を飲み込む形でした。

この不備に対する沖縄の教会の主張は当然と言えます。そこで「日本基督教団」を「日本キリスト教団」と変えよう、又信仰告白の改訂を含めて合同問題のとらえ直しをしようと議論されています。ある人々は沖縄の教会のこの主張は、教会を社会変革の砦にしようとする政治的・イデオロギッシュなものであると批判していますが、それは的外れです。沖縄の人々は平和憲法下の本土並復帰が夢でした。しかし沖縄の現実は変わらず失望させられました。沖縄の教会は、本土の教会も行政と同じで沖縄の教会が抱える課題を共に担おうとしていないのではないかと信仰の「質」を問いかけていると私は理解しています。昨年、青年会員たちと訪ねた沖縄の教会で、「あなたがたの現場で平和を実現する一步を歩み出してください、それが沖縄との共働です」と力説されました。

一牧師室から一

現在、私たちの日本基督教団は沖縄キリスト教団との合同問題をとらえ直そうと議論を重ねています。1941年の宗教団体法によって「日本基督教団」が誕生しました。その時、沖縄の教会は九州教区沖縄支教区でした。戦後、沖縄は米軍統治化に置かれたましたが、本土の教団は沖縄支教区を放置したまま再出発しました。沖縄の教会も「沖縄キリスト教団」として独自の歩みを始めました。沖縄が本土復帰した前年の1969年、日本基督教団と沖縄キリスト教団は合同しました。この合同のあり方の不備が、沖縄の教会から主張されています。教会が合同する場合、名称・信仰告白の改訂をするとか、合同日を新しい出発日とするとか、あくまで対等でなされます。ところが、この合同は日本基督教団に沖縄キリスト教団が